

音楽棟通信

長崎大学教育学部音楽講座

Vol.1 平成14年度 秋冬号

発行日：平成14年8月 発行者：長崎大学教育学部音楽講座 住所：長崎県長崎市文教町1-14 TEL:095-847-1111

中部講堂ピアノ設置記念演奏会

今年度長崎大学正門左手にある中部講堂内に、長崎大学教育学部音楽講座にとって、かねてからの念願であったグランドピアノが設置されました。これにより、演奏の機会が増えると共に、芸術を大学から社会へと発信する機会も増えると喜んでます。

このグランドピアノ設置を記念して、5月18日に記念演奏会が開催されました。(写真下)



この演奏会には、音楽講座の先生方と音楽講座の学生の他、九州交響楽団のヴァイオリン奏者、李軍さんに加え、昨年「日韓音楽交流会」が10周年を迎えたことも記念し、韓国から慶北大学校芸術大学教授の沈松鶴先生が出演しました。予想を上回る聴衆に見守られての演奏会は終了後も好評で、一般の方から「感激した」とのお電話等も頂きました。その反面、「もっと宣伝をして、市民に知らせて欲しい」との要望も寄せられています。

これからも音楽講座では、市民に向けての演奏会を開催したいと思います。

(下：沈先生からお手紙が届きました)

先月の日本(長崎)での演奏会に参加させて頂き、ありがとうございました。

長崎での演奏会の感動は、現在も続いております。長崎の演奏者の方々は、とても素晴らしい演奏でした。また、私とご一緒に歌われたソプラノの先生は、演奏がとても素晴らしく感動いたしました。長崎大学音楽科の先生方の心が1つになって演奏会を成功させるお姿に、感動とまた、勉強にもなりました。

6月10日(月)、大邸Wカップ競技場にて韓国対アメリカ戦がありました。そこで競技開始前に、韓国の国歌を6万7千人の前で歌い、感動いたしました。

現在、こちら慶北大学校は夏休みに入りました。私は夏休みも夏期講習があり、毎日大学で講義しております。

また8月18日(日)はソウルにてソロコンサートをする予定で、その準備に取り掛かっており、忙しい毎日を過ごしております。

長崎大学の先生方のご健康をお祈りいたします。ありがとうございました。またお会いできることを楽しみにしております。

慶北大学校芸術大学音楽学科 沈 松鶴
P.S.他学部の学生からも感想が寄せられました

*僕は普段あまりクラシックは聞かないのですが、こういう機会があり、しっかりと聞くとすごく良かったです。やっぱりCDと生の迫力は全然違うものであるなと感じました。日常生活ではあまり体験できない、貴重な経験ができたと思います。

(経済学部1年 間地恵造)

*こういう音楽をコンサートで直接聴いたのは初めてだったので、なんだか新鮮なものがありました。ポップなものやロック系とはまた違い、**疲れた心を癒してくれる力がある**と思いました。コンサートはとても素敵でした。

(工学部1年 関佐和子)

*受験、引越し、新生活のスタートなどで、心を落ち着かせる時間も無く、ただ毎日をご生活だけの生活に少しずつ疲れを感じ始めている自分に、いろんな思いを呼び起こしてくれる時間であった。これを機に音楽科の益々の発展と、音楽を通して地域社会に貢献できるような企画を願いたい。**音響にかなりの問題があると思われる**。音に包まれるような心地よさはなかった。一般のホールにはいかないだろうが、ピアノも入り、ますますコンサートが増えるのであれば、反響板や残響音についても考慮していただければと思う。(医学部1年 川上陽子)

「千人のカンテスト」に参加

NHK-BS「熱血！ふるさと対抗 千人のカンテスト」に、音楽講座の先生と学生を中心に、長崎市民が参加しました。このカンテストは、都市対抗で1000人集まって何ができるか、そのやり遂げた感動を競い合うNHKの衛星番組です。私たちはガラスを使って、長崎の音楽と風物を表そうと、「**ガラスオーケストラによる 交響詩ひいどろ**」を演奏しました。何日もかけて音楽棟にコップやビンを集め、曲を練習しましたが、一番の心配は、番組の収録当日に本当に1000人が集まるかどうか、また、1000人

でまともな演奏ができるかということでした。

収録日の4月21日には、予想を上回る市民が集い、無事演奏も形となり、やり遂げた感動が押し寄せました。「やればできる」です。(写真下：長崎大学総合体育館)



放送は5月6日にNHKのスタジオから生でされ、音楽講座の先生と学生が招かれました。VTRでは堀内先生がかっこよく決め、放送本番では三上先生が大活躍をされました。ご覧になった方も多いのではないのでしょうか？



優勝は逃したものの、音楽講座と長崎市民が強く結ばれ、1000人の記憶に強く刻まれた、素晴らしいイベントとなりました。(写真上：NHKのスタジオにて)

「収録日に向けて、準備を進める中、イベントを成功させるまでの大変さを知り、番組ができるまでの様子を体験しました。放送日、スタジオにはたくさんのテレビスタッフがいて、(収録後も)生放送を成功させるために、これだけの人が関わっているのだと、思い、感動しました。テレビ製作の人達とたくさんのお話ができて、NHKのスタジオを訪れるなど、日頃できない貴重な体験ができて本当によかったです。」

芸術コース4年山口弥生 山口弥生さん
(音楽科学生会平成13年度科長)



チャレンジ!

～ 限りある学生生活の中で

今年の6月に芸術コース3年の大塚幸子さんが、宮本亜門演出のミュージカル『ファンタスティックス』のヒロイン、ルイーザ役オーディションに挑戦しました。



大塚幸子さん

まずはテープ審査に見事合格。続けて東京でのオーディションに臨みました。全国からの応募者の中からテープ審査に合格し、オーディションまで残ったのはわずか20人でした。その内訳は、一般(フリー)の応募者が10名、音楽事務所所属の歌手(?)が10名。一般ではベテランから某大学のミュージカル科の学生まで、事務所系ではプロの歌手から音楽事務所所属の芸大生までが残っていました。大塚さんはその中でも最遠方からの参加でした。

オーディションでは、このミュージカルからの課題曲2曲と芝居(台詞)の試験が課せられました。テープ審査合格の通知と課題曲の楽譜が送られてきて、わずか4日後のオーディションであり、ほとんどの参加者がこのミュージカルの曲を知っている中、ミュージカル初体験の大塚さんは、ゼロからスタートし、たった4日での挑戦となったわけです。当日のオーディションは厳しく、課題曲1曲のみで打ち切られる者もいる中、大塚さんは課題曲2曲とも歌うことができ、加えて、演出の宮本亜門氏が直々に演技指導を行ってくれたそうです。

オーディションでは、このミュージカルからの課題曲2曲と芝居(台詞)の試験が課せられました。テープ審査合格の通知と課題曲の楽譜が送られてきて、わずか4日後のオーディションであり、ほとんどの参加者がこのミュージカルの曲を知っている中、ミュージカル初体験の大塚さんは、ゼロからスタートし、たった4日での挑戦となったわけです。当日のオーディションは厳しく、課題曲1曲のみで打ち切られる者もいる中、大塚さんは課題曲2曲とも歌うことができ、加えて、演出の宮本亜門氏が直々に演技指導を行ってくれたそうです。

今回のオーディションには残念ながら合格しなかったものの、亜門氏から「芝居の経験がないためこれから演技の勉強をしろ」とのアドバイスをもらうなど、ある意味、歌唱能力のハードルは超えていたと言え、大塚さんにとってはまずまずの成果を挙げたと言えるでしょう。

「初めてのミュージカルのオーディションには、合格しなかったものの、これから何を勉強して行けば良いか分かったので、私にとって大きな一歩であり、また素晴らしい経験になりました。これからは今以上に努力し、様々なオーディションに挑戦して行こうと思います。」(大塚幸子)

♪♪♪♪♪

芸術コース2年の小倉和子さんは、コーラスのオーディションに合格し、今年の11月2日(土)、3日(日)に長崎ブリックホールで開催されるオペラ『コシ・ファン・トゥッテ』の公演に参加します。ブリックの大ホールで、



小倉和子さん

衣装を着け、メイクばっちりでの本格的オペラ公演への出演なのです。大舞台の上での経験はめったにつめないものです。私(茂)も大学生の頃には、数

えきれないほど色々な公演にコーラスで参加し、体で舞台を感じ、様々なことを教えられました(ちなみに宮本亜門氏の初演出オペラ『愛の妙薬』でも兵役役を演じ、しっかりごかれた思い出があります)。

みんなで中倉さんの舞台姿に注目しましょう!

♪♪♪♪♪

芸術コース1年の石橋智美さんは、今年の6月3日の「コンチェルトとの出逢い」(長崎ブリックホール)に出演し、シューターミツ作曲 クラリネット協奏曲第3番変ロ長調 第1楽章を演奏しました。

「私はコンチェルトの舞台に立つことで、本当に良い経験をさせて頂きました。リハーサルが終わってから、オーケストラの方々に表現の仕方などを色々指摘されてすごく勉強になったし、今後の新しい課題を見つけることもできました。更にヨーロッパの方々と共演することで、本物の音楽というのを感じさせられたところです。本当に夢のようでした。」(石橋智美)



石橋智美さん

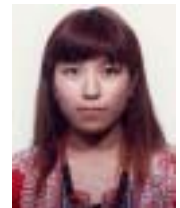
「私はコンチェルトの舞台に立つことで、本当に良い経験をさせて頂きました。リハーサルが終わってから、オーケストラの方々に表現の仕方などを色々指摘されてすごく勉強になったし、今後の新しい課題を見つけることもできました。更にヨーロッパの方々と共演することで、本物の音楽というのを感じさせられたところです。本当に夢のようでした。」(石橋智美)

ポーランド国立クラクフ・フィルハーモニー管弦楽団をバックに、ローラント・バーター氏指揮での演奏です。こんな経験は滅多にできるものではありません。その気分は最高のものだったでしょう。(写真下)



♪♪♪♪♪

芸術コース4年の山口弥生さん(フルート)と小浦優子さん(ピアノ)がデュオを組み、8月2日に長崎ブリックホールで行われたラウンジコンサートに出演しました。



小浦優子さん

「この3年間、2人で演奏したいと思っていましたが、お互いにいろいろな事をしてきたわりに、2人でコンビを組むのは4年目にして初めてのことです。そんな2人が初めて演奏する曲は、70~80年代のクラシック以外の曲になりました。私たちが生まれた80年代の曲を演奏することは、意味のあることに思えます。夏の日の夜に、ラウンジの素敵な雰囲気の中で、涼しげな曲を奏でたいと思います。」(ラウンジコンサートへの抱負/小浦優子)

♪♪♪♪♪

聴衆を前にしての演奏ほど、終わってからまた演奏したいと思うものではありません。しかし、演奏のチャンスは黙って待っていて、勝手にやって来るものでは

ありません。常にチャンスを求め、自らチャレンジしてゆくのみです。失敗を恐れてちゅうちょなどしていません。逆に今ならいくらでも失敗ができるのです。私たちが音楽講座の教員一同は、何時も応援しています。

《次のチャレンジャーはあなたです!!》

授業：実習：体験

5月16日と6月21日の2日間、初等教育コースの2年生は、参加観察実習の一環として、長崎大学附属養護学校に行きました。

私たちが行った時、子供たちは、火を起こし、ご飯を炊く練習をしていました。子供たちの様子を観察していると、最初は火を怖がって、火に近づかない子供がいました。しかし、仲間と協力して作業を進めて行くにしたいが、自分から火元に薪を入れ始めました。私たちが数日前に行われた野外体験実習で飯盒炊飯を行いました。子供たちは私たちと変わらないほど上手に、ご飯を炊いており、感心しました。

私たちはこれまでに4回、養護学校に実習として行っています。そこでは、普段触れ合う機会のない障害を持った子供たちと触れ合うことができました。時間にすれば少なかったですが、ふれあいや観察の中から、子供たちの素直さや純粋さが充分伝わってきました。そして今まで抱えてきた、障害者に対するイメージも変わり、子供たちのことを、とても愛らしく感じるようになりました。(初等教育コース2年 馬場晶子、山口緋美)

♪♪♪♪♪

私たち学校教育教員養成課程の2年生は、秋に小中学生と一緒に行われる野外宿泊体験実習の準備研修として、6月16日早少年自然の家にリーダー研修に行きました。



吉田菜見さん(前列左から2人目)

リーダー研修では、オリエンテーリングを行い山の中を歩き回ったり、飯盒炊飯によりカレーを作って食べたり、キャンドルの集いを行ったり、日頃滅多にできない貴重な体験をしました。今回のリーダー研修は、私たち大学生のみでしたが、次回の野外宿泊体験実習では、小中学生の引率者として参加します。今回の体験を通して学んだことを生かし、次回には引率者としての責任を果たしたいと思っています。(中学校教育コース2年 吉田菜見)

♪♪♪♪♪

6月20日に音楽科と美術科の3年生を中心とした

学生が、上諫早小学校の子供たちと交流会を行いました。



午前中は子供たちと七輪陶芸をしました(写真上)。音楽科の学生だけでは心配もありましたが、美術科の学生と合同であったおかげで、七輪陶芸は成功しました。昼食後は、忍者に変装した子供たちとゲームをして遊びました。子供たちだけでなく、大学生の方も楽しんでいました(写真下)。



交流行事も全て終わり、子供たちとのお別れの時間



弓戸実輪さん

になると、それまではしゃいでいた子供たちも、寂しげな様子を見せました。しかし楽しい一日を思い出し、みんな笑顔で終わりました。「機会があればまた、子供たちとの交流会を行いたい」と思います。(初等教育コース3年 弓戸実輪)

研究発表会開催

平成14年度第1回研究発表会が、7月2日に長崎大学中部講堂にて開催されました。

この研究発表会は学生の研究の質の向上を目的として、長崎大学教育学部音楽科学生会※が研究発表の場を設け、器楽、声楽等の演奏や論文の発表を行ってきたものです。

今回の研究発表会は、公開演奏と時期が重なったこともあり、大学院生による演奏が半数を占め、より幅広い学年層の演奏が聞かれました。その内訳は、大学院生4名、芸術コース4年1名、2年2名、1年1名、学校教育3年3名の計11名でした。

「いつも人の前で演奏する毎に、美しい言葉を伝えることと、自分の音楽を表現することの難しさを痛感します。曲から感じとれる美しい情景と、内に秘めた感情のひだを、一つの空間で共感しあうことができれば素敵ですね。機会



原さとみさん

ある毎に、このような研究発表会や演奏会に出演し、その瞬間でしか味わうことのできない緊張感や空間芸術の素晴らしさを、これからも求めていきたいと思

います。ご指導していただきました先生方、お世話していただきました3年生の皆さん、どうもありがとうございました。」(大学院1年/小学校教諭 原さとみ)

※音楽科学生会とは、毎年音楽講座の3年生を中心に組織される団体で、科長を初めとした学生役員により、様々な音楽科行事を行っています(先生方よりも役に立っているかもしれませんが…)。因みに平成14年度音楽科学生会科長は大塚幸子さんです。

日韓音楽交流情報

長崎大学教育学部音楽講座と韓国の慶北大学校芸術大学との音楽交流もついに10年を越えました。これまでに、何度もお互いの国を訪問し合い、ホームステイや合同演奏会を通じ、日韓の友情関係を深めて参りました。同校との交換留学も順調かつ活発に行われ、昨年度の**白スサンナさん**(声楽専攻)に続き、平成14年度は、**李知暎さん**(ピアノ専攻)が特別研究生として音楽講座に留学してきました。

「音楽は自然な時が最も美しいと思います。自然は音楽を美しくします。従って、昔から今に至るまで、音楽の中には自然の美しさが入っています。私が初めて長崎に来て



留学生の李知暎さん

驚いたのは、長崎の街が自然に巻き込まれていたことです。長崎は私にとって良い環境の場所だと思えます。緑多き稲佐山と夜のロマンチックな大波止は、長崎の中で私が大好きな風景です。現在住んでいる国際交流会館(坂本)に帰る時、坂を登るのがとても大変…ということなどありますが、輝ききれいな月と新鮮な空気が私の体を満たしていくのを感じます。そして、私の部屋の窓から見える、夜景を見るたびに、自然とシューマンの「森の情景」が思い出されるのです。」

(大学院特別研究生 李知暎)

また、音楽講座からも、昨年度帰国した大学院生の**森山達郎くん**に続き、大学院2年の**垣内永圭さん**が慶北大学に留学しました(7月29日出国)。

「今までに4回に亘って参加してきた日韓交流は、私にとってとても刺激的で実りの多い行事でした。近いようで遠い存在だった韓国とその人々と触れ合うことで、文化の違いや国民性を感じながらもあたりまえなのですが、



垣内永圭さん

やはり同じ人間であると改めて感じました。日本と韓国には戦争時代の消えない傷があります。戦争を知らない私たちの世代にとって、その事を知るのは必要だと思います。表面的でなく、偏見を持たずに交流を深めるためにも、互いの国を知ることが大切だと思うのです。今日、慶北大学へ留学する機会が与え

られたことは、私にとって大きな転機になると思います。専門分野である声楽を含め、様々なことを学び、吸収していきたいと思っています。」(大学院2年 垣内永圭)

来年(平成15年度)5月には、音楽講座が韓国の慶北大学を訪問します。韓国でのホームステイや交流演奏会を通じて、日韓の学生の皆さんに新たな友情が芽生えることを願います。

長崎市の日韓交流行事に参加

8月1日から長崎市では日韓国民交流記念フェスタが行われました。音楽講座では、この行事のために来日した韓国学生と、8月2日に音楽棟にて日韓交流を行いました。交流会では、韓国の学生が韓国民謡を多数披露してくれました。また音楽講座の学生も、琴の演奏をはじめ、日本の歌曲などを演奏しました。2時間ほどの交流でしたが、お互いの国の文化を紹介しあい、楽しい時間が過ごせました。

↓ 韓国の音階を教えてくださいました



↓ 日本の琴に興味津々



公開演奏開始

平成14年度より、新しくピアノを設置された中部講堂にて芸術コースの**公開演奏試験**(1単位)が開始されました。

これまで音楽科学生会が独自に、実技の向上と日頃の研究成果を聴衆の前で披露することを目的として、年2回の研究発表会を開催していました。

今回の公開演奏では、研究発表会とは異なり、単位と評価を伴う演奏が求められ、これまで以上の緊張感のある演奏が期待されました。6月28日、7月5日、7月12日の3日間に分けられた公開演奏には、3、4年生の17名が試験に臨みました。

キャンパスライフ

～ 今だからできること

★サッカー観戦記

6月14日。その日は、ワールドカップの予選リーグ、**日本 VS チェニジア**が行われる日でした。4時まであるはずの授業が3時半に終わりました。私は友達と大急ぎで学生食堂(学食)に



田中唯子さん

向かいました。学食では、この日のために大きなスクリーンが特別に設置されていました。そのスクリーンの周りは、すでに学生でいっぱいになっていました。日本代表のユニホームを着た学生や、「ニッポン！」コールをしている学生がいて、まるでサッカーの競技場のような様子でした。試合が始まると、みんなで声を上げて喜んだり、悔しがったり、ブーイングしました。得点が入った瞬間には、いっせいに立ち上がり、叫び、手を叩き、何が起こったかを忘れるほどの騒ぎとなりました。「その場にいるだけで、誰もが感激を共有できるスポーツ、サッカーっていいな」と改めて感じました。また今日騒げたのは、「大学生ならではの経験だ」と思いました。(初等教育コース3年 田中唯子)

★へき地ちびっこクラブ

私は「へき地ちびっこクラブ」というサークルに入っています。このサークルは、小学生とのふれあい活動や、五島の小学校への研究旅行を行うサークルです。私たちは6月8日に教育学部の体育館で、長崎市内の小学生や保護者を招いて、



佐々木文子さん

工作教室を行いました。今年度からの完全学校週5日制の影響もあり、当日は50人以上の小学生と保護者が集まり、フィルム・ロケットやスライム、プラホビなどの工作や、ドッジボールをして遊び、みんなで交流を深めました。私は小学校の教員を目指しているので、とても良い経験になりました。(初等教育コース3年 佐々木文子)



★2002年サマー・コンサート

6月15日に長崎市民会館で、私が所属している**長崎大学管弦楽団**の演奏会がありました。私は**ホルン**を担当しています。大学に入学してから楽器を始めたため、高音が出なかったり、音色が悪かったりと、足りない部分がたくさんありました。ところが、今回演奏

した**ベートーヴェンの交響曲第8番**にはホルンのソロがあり、とても苦労しました。そのソロの部分は、練習ではできても、全体で合わせる段階になると、緊張のため成功したためしがほとんどなく、本番で上手くいかどうか、本当に心配でした。しかし、本番の演奏会では、自分の納得のいく演奏ができました。私は、今まで経験のなかったことを大学ででき、毎日がとても充実しています。これからは、来年1月の演奏会に向けて、より一層上達できるようがんばりたいと思います。(初等教育コース2年 福島慈)

★ドームで踊りたい！

昨年某オーディション番組で、**浜崎あゆみ**の4大ドームツアーで、オープニングアクトをするダンサーの募集がありました。私は「ドームで踊りたい」という軽い気持ちで、締切りが過ぎていたのにも関わらず、応募しました。オーディションの第一次審査は、書類(写真と履歴)で行われました。応募総数1万2千人の中から、東京、大阪、名古屋、福岡のそれぞれの地区で約200～500人が通過し、私は運よくその中に残っていました。第2次審査は、全国4ヶ所で行われ



若杉千春さん

演出の先生とツアーダンサーから、45分のレクチャーを受け、浜崎さんの曲に合わせ、全員同じ振りを踊りました。しかもこの審査は、浜崎あゆみさん本人の前で踊る、直接審査でした。私は緊張のあまり、途中の振りを忘れてしまい、さんざんな踊りになってしまいました。しかし、最終選考を勝ち抜き、全国をまわるリーダー6人を含む、約300人のダンサー(福岡地区は74人)の中に入ることができました。ダンススクールにも通わず、趣味程度で続けてきたダンスを認めてもらい、私にとって人生で一番幸せだと思った出来事でした。その後、AYUちゃんに出逢い、ドームツアー、スタジアムツアーを体験した私は、視野が広くなり、人生観が良い方向に変わって行きました。そして、自分のプライドが持てるようになった気がします。こんな素晴らしいチャンスを与えてくれたAYUちゃんに感謝してます。(中学校教育3年 若杉千春)

★初めて自分から…

私は昨年冬から、ヴァイオリン好きの国語科の友人とユニットを組んで音楽活動を始めました。ユニット名は「たらちや」



宮崎郁恵さん(右)

です。これは「たらちや茶漬」の省略で、「たらちやが二腹から成る」ように、二人が団結して「お茶漬けのようにほっとする」音楽を生み出そうという由来から名付けられました。主な演奏スタイルは、二人の歌ですが、ヴァイオリンとピ

アノでクラシックな一面も持っています。これまで音楽といえば、気が付けばピアノを習っていたとか、部活で合唱やったとかばかりで、自分から音楽を作り出すのは初めての経験でした。一度東京の音楽事務所のオーディションに応募しましたが、「歌唱力はあるが、個性がない」といわれ、落選してしまいました。今は、個性を出せるよう、選曲や練習をして、路上で演奏したりしています。「少しづつでも、初めて自分から取り組むこの活動を、形あるものにできるようにがんばろう」と思っています。いずれは「実力派のユニット」といわれたいです。(初等教育3年 宮崎郁恵)

平成14年度後期演奏会情報

♪附属養護学校での音楽教室

9月14日に**長崎大学附属養護学校**での音楽教室に音楽講座の学生が参加します。この音楽教室は、長崎大学管弦楽団が毎年附属養護学校を訪問しているもので、生徒たちが楽しみにしている行事の一つです。毎回演奏会の中で、オーケストラと共に生徒が歌うコーナーがあるのですが、今年は音楽講座で歌のお手伝いをするようになったのです。音楽を通してふれあいが持てることを、みんな楽しみにしています。

♪公開講座「ウィークエンド・コンサート」

10月5日から11月30日までの土曜日に(午後2時～4時)、音楽棟2番教室にて**平成14年長崎大学教育学部公開講座**が開催されます。音楽の楽しみを音楽講座の教員が熱く語り、演奏する内容です。対象は市民一般。参加費用6,800円。募集人数30名。申込期間8月21日～9月21日。参加希望の方は、ハガキ又はFAXで長崎大学教育学部堀内研究室まで。

♪ブリックホール・ラウンジ・コンサート

9月25日(水)のラウンジ・コンサート(18:30～21:30)に、留学生の**李知暎さん**(ピアノ)と**朴文慧さん**(ソプラノ)のデュオが出演します。ぜひ聴きに行ってください！

♪音楽科ホームページ案内♪

<http://www.edu.nagasaki-u.ac.jp/depart/music/>

編集後記

平成14年度前期も終わり、「音楽棟通信」の第1号がようやく完成しつつあります。編集のため改めて前期の4ヶ月半を振り返ってみると、ほんの少しの間にも「ずいぶん色んな事があつたな…」と驚いています。その中でも私の1番の思い出は、6月に行われた(ずいぶん遅いのですが)春恒例の音楽科新歓コンパです。新入生の様子を見てみると、帰り際に誰に言われた訳でもなく、全員が大学院生に向かって「お先に失礼します」ときちんと挨拶していました。「音楽科にも先輩後輩の関係ができていくんだな…」と感心しつつも、ふと我に返ると「自分はきちんと挨拶されていたっけ？」と考え込んでしまいました…。私なりに14年度前期の音楽講座の活動をまとめてみたのですが、如何だったでしょうか？皆さんからの意見、感想、情報などをお待ちしています。～先輩よりも怖くない宮下茂(内線2379)まで。